

理数教育

数学に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂（告示）→「数学Ⅰ」必履修。『数学』各科目：数学Ⅰ、数学ⅡA、数学ⅡB、数学Ⅲ、応用数学

- ・ 数学における基本的な知識の習得と基本的な技能の習熟を図り、それらを的確かつ能率的に活用する能力を伸ばす。

昭和45年改訂（告示）→『数学』うち「数学一般」または「数学Ⅰ」のうち1科目を必履修。（理数科：総合数学は原則必履修。）
『数学』各科目：数学一般、数学Ⅰ、数学ⅡA、数学ⅡB、数学Ⅲ、応用数学（理数科：総合数学、計算機数学）

- ・ 論理的に考え、統合的、発展的に考察し、処理する能力と態度を育成し、また、社会において数学の果たす役割について理解させる。

昭和53年改訂（告示）→「数学Ⅰ」必履修。（理数科：理数数学、総合数学は原則必履修。）
『数学』各科目：数学Ⅰ、数学Ⅱ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計（理数科：理数数学、総合数学）

- ・ 体系的に組み立てていく数学の考え方を通して、事象を数学的に考察し処理する能力を高めるとともに、それらを活用する態度を育てる。

平成元年改訂（告示）→「数学Ⅰ」必履修。（理数科：理数数学Ⅰ、Ⅱは原則必履修。）
『数学』各科目：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C（理数科：理数数学Ⅰ、Ⅱ）

- ・ 事象を数学的に考察し処理する能力を高めるとともに数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。

平成11年改訂（告示）→『数学』うち「数学基礎」または「数学Ⅰ」のうち1科目を必履修。（理数科：理数数学Ⅰ、Ⅱは原則必履修。）
『数学』各科目：数学基礎、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C
（理数科：理数数学Ⅰ、Ⅱ、理数数学探究）

- ・ 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。

平成21年改訂（告示）→「数学Ⅰ」必履修。（理数科：理数数学Ⅰ、Ⅱは原則必履修。）
『数学』各科目：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学活用（理数科：理数数学Ⅰ、Ⅱ、理数数学特論）

- ・ 数学活用：指導内容と日常生活や社会との関連及び探究する学習を重視。

理科に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂（告示）→『理科』うち「物理A」または「物理B」、「化学A」または「化学B」、生物、地学の4科目を必修。
『理科』各科目：物A、物B、化A、化B、生、地

- ・基礎学力の向上と科学技術教育の充実をめざして、教材を精選し、系統的な学習を目指す。

昭和45年改訂（告示）→『理科』のうち「基礎理科」1科目または「物理I」、「化学I」、「生物I」、「地学I」のうち2科目必修。（理数科：総合物化生地は原則必修。）
『理科』各科目：基礎理科、物化生地I、物化生地II（理数科：総合物化生地）

- ・「科学技術の高度の発展」に対応することを明示、内容をさらに精選して質的向上を図るとともに「探究の過程を通して、科学の方法を習得させ、創造的な能力を育てる」ことを目標とした。
- ・「科学の方法の習得」を目標とした「基礎理科」を新たに開設。

昭和53年改訂（告示）→「理科I」必修。（理数科：理数理科は必修、理数物化生地のうち、原則2科目以上必修。）
『理科』各科目：理科I、理科II、物化生地（理数科：理数理科、理数物化生地）

- ・理科I：中学校で削減された内容を担保、高校理科の基礎の定着などをねらいとして開設。
- ・理科II：課題探究を通しての科学の方法の習得をねらいとして開設。
- ・Iを付した科目とIIを付した科目を合わせて、「物理」「化学」「生物」「地学」を開設。

平成元年改訂（告示）→『理科』のうち「綜合理科」、「物理IA」又は「物理IB」、「化学IA」又は「化学IB」、「生物IA」又は「生物IB」及び「地学IA」又は「地学IB」の5区分から2区分にわたって2科目必修。（理数科：理数物化生地のうち、原則3科目以上必修。）
『理科』各科目：綜合理科、物化生地IA、物化生地IB、物化生地II（理数科：理数物化生地）

- ・綜合理科：理科Iに代わる総合的な理科の科目として開設。
- ・日常生活と関係の深い事物・現象を扱う科目として物理IA、化学IA、生物IA、地学IAを開設。
- ・合計13科目の中から2科目を選択というような、履修科目の多様化。
- ・物化生地II：系統的な学習内容の他に、問題解決能力の育成を図る目的で課題研究を内容の一部とした。

平成11年改訂（告示）→『理科』のうち「理科基礎」、「理科総合A」、「理科総合B」、「物理I」、「化学I」、「生物I」及び「地学I」のうちから2科目必修（「理科基礎」、「理科総合A」及び「理科総合B」のうちから1科目以上を含むものとする。）。（理数科：理数物化生地のうち、原則3科目以上必修。）
『理科』各科目：理科基礎、理科総合A、理科総合B、物化生地I、物化生地II（理数科：理数物化生地）

- ・理科基礎：科学と人間生活とのかかわりを学習。
- ・理科総合A：エネルギーと物質の成り立ちを中心として、自然を総合的に学習。
- ・理科総合B：生物とそれを取り巻く環境を中心として、自然を総合的に学習。
- ・物化生地I：前回CSの「IBを付した科目」「IIを付した科目」のうち、基本的な内容で構成、探究活動を内容の一部とした。
- ・物化生地II：発展的な内容を学習。また、課題研究を内容の一部として位置付け、課題解決能力を育成。

平成21年改訂（告示）→『理科』のうち「科学と人間生活」、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」のうちから2科目（うち1科目は「科学と人間生活」とする。）又は「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」のうちから3科目必修。
（理数科：課題研究は原則必修、理数物化生地のうち、原則3科目以上必修。）
『理科』各科目：科学と人間生活、物化生地基礎、物化生地、理科課題研究（理数科：課題研究、理数物化生地）

- ・基礎的な科学的素養を幅広く養う科目として、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を開設。
- ・科学的な見方や考え方を育成するために観察・実験の充実。
- ・科学と人間生活：指導内容と日常生活や社会との関連を重視。
- ・理科課題研究：知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視。

理数教育の現状

①理数系目の学力の状況は、トップレベルにある。

科学リテラシー：OECD諸國中1位、数学的リテラシー：OECD諸國中2位。

【PISA2012(15歳児対象)】

②先進的な理数教育を行う高等学校等をスーパーサイエンスハイスクールとして指定し、支援。
高校段階から、課題研究などに積極的に取り組み、成果をあげている。(平成27年度指定 203校)

成果Ⅰ 生徒の科学技術への興味・関心や姿勢に関する効果

SSHの取組を通して、科学技術に関する学習意欲や未知の事柄に対する興味の向上に加え、自分から取り組む姿勢、真実を探って明らかにしたい気持ちについても向上が見られる。

SSH参加により・・・

- 科学技術に関する興味・関心・意欲が向上したと回答した生徒：66%
- 未知の事柄への興味が向上したと回答した生徒：72%
- 自分から取り組む姿勢が向上したと回答した生徒：62%
- 真実を探って明らかにしたい気持ちが向上したと回答した生徒：64%

【平成25年度スーパーサイエンスハイスクール意識調査】[国立研究開発法人科学技術振興機構]

成果Ⅱ 生徒の進路に関する効果

SSH卒業生の8割近くが理系の学部を専攻。大学院への進学率は、大学生全体の約4倍、理系の大学生の約2倍。

- SSH卒業生の卒業3年目時点の専攻分野：H20年度卒業生の78.1%、H21年度卒業生の80.6%、H22年度卒業生の79.8%が理系
- H19年度に高校を卒業した生徒の大学院進学率：SSH校 56.6% (大学生全体 14.9%、理系の大学生 30.4%)
- H20年度に高校を卒業した生徒の大学院進学率：SSH校 58.1% (大学生全体 13.9%、理系の大学生 28.9%)

【平成23・24・25年度スーパーサイエンスハイスクール意識調査】[国立研究開発法人科学技術振興機構]

理数教育の課題

①学力の上位層割合は他のトップレベルの国・地域より低い。

②数学に対する不安を感じている生徒の割合は高い。 ③数学を有用と感じている生徒の割合は低い。

①科学的リテラシーレベル5以上の生徒の割合：日本18%、シンガポール23%、上海27%

②数学に対する不安：日本 -0.36、シンガポール -0.16、OECD諸国平均 0.01 (値が大きいほど不安は弱い)

③数学における道具的動機付け：日本 -0.50、シンガポール 0.40、OECD諸国平均 -0.30 (値が大きいほど有用と感じている) 【PISA2012】

理数教育の課題

科学について学ぶことに興味がある生徒の割合は低い。

科学について学ぶことに興味がある生徒の割合：日本50%、OECD平均63%

【PISA2006】

- ①自然や科学への興味や関心は、日米中韓の中で最低。
- ②「社会に出たら理科は必要なくなる」と回答した割合は、日米中韓で最多。
- ③日本の高校生における、自由研究の経験者の割合は高い。
- ④理科自由研究の実施時期は小学5年生の時期が最多。

①日本：59.5%、米国63.6%、中国79.3%、韓国63.1%

②日本：44.3%、米国22.4%、中国19.2%、韓国30.2%

③日本：54.6%、米国29.3%、中国50.8%、韓国29.4%

④日本：小1で2割、小3で4割強、小5で6割を超えた高い比率。中3で3割弱まで減少、高校に入ると自由研究をほとんど行わなくなっている。

(米国は中学校の時期に理科の自由研究が多く行われ、韓国は小5から高1の間に盛んである。中国は主に中2から高1で自由研究が多く行われている。)

【高校生の科学等に関する意識調査H26】[独立行政法人国立青少年教育振興機構]

・日本の高校生は、理科の自由研究を経験した割合が4ヶ国中で最も多いにもかかわらず、科学への関心は最低で、理科の学習は社会に出たら役に立たないと考える者も多い。

・理科の自由研究の実施時期は、日本においては小学校の時期が最も多いが、他の3ヶ国は中2～高1までが多い。

・高校生において、自主性、主体性のある研究、探究活動が重要。

(参考) スーパーサイエンスハイスクールにおける科学的探究学習の例

【フロンティアサイエンス I・II・III】



(写真左) 生徒によるディベート形式の発表会の様子(研究テーマ: 金属イオンの沈殿反応を利用した溶液の成分分析)

「フロンティアサイエンス I・II・III」という科目を設けて、〔事前学習→フィールドワーク・講義→探究活動→発表・評価〕を1サイクルとするユニット制で授業を行う。論理的思考力、創造性・独創性、科学的探究力、表現力の育成を図る。

[石川県立七尾高等学校]

※SSH(スーパーサイエンスハイスクール)

高等学校を指定し、将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する高等学校を指定(平成27年度203校指定)。

【数理課題研究】

数学・物理分野について、高校で学習する内容を超えた高度な内容の研究に取り組む。研究では身近な現象の中に問題を見つけて数学的モデルの作成を行い、実験でその正しさを検証する。

加えて、研究発表の機会を活かして、プレゼンテーション力の向上にも努める。継続研究する生徒は個人研究に取り組み、学会発表・論文作成を目指す。

課題研究によって、探究力・問題解決能力・創造性を育成するとともに、大学の設備等を利用して実験・研究を行い、進路選択の動機付けもねらいとしている。

[学校法人ノートルダム清心学園清心女子高等学校]

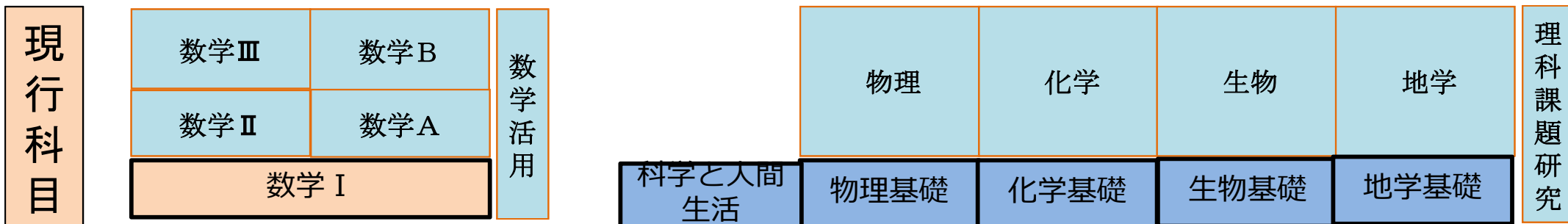
【SS数理情報】

数理的な事象を考察・分析するために、数学を基礎として論理的な思考力を育成するとともに、コンピュータを有効に活用し、問題解決を図る能力を養う。

[東京都立科学技術高等学校]

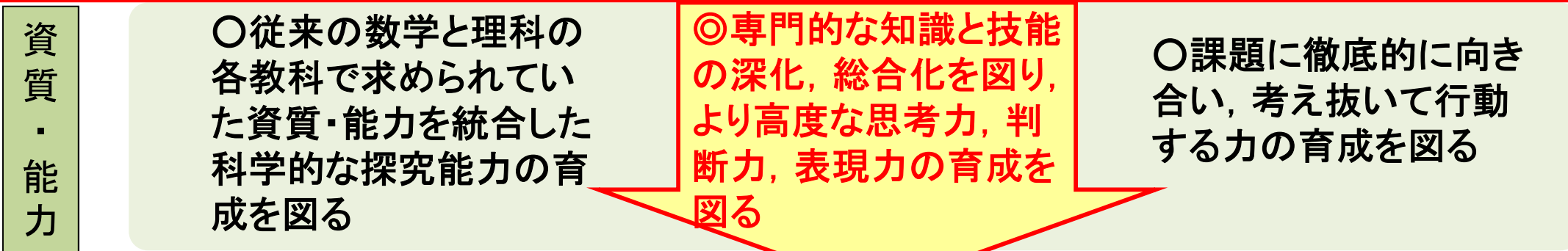
理数科目の今後の在り方について（検討素案）

普通科の場合



- ・ 数学活用：指導内容と日常生活や社会との関連及び探究する学習を重視。
- ・ 理科課題研究：知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視。先端科学や学際的領域に関する研究なども扱える。
- ・ 課題研究等の活動は生徒の論理的な思考を育成する効果が高いが、あまり開講されていない状況。（1割未満）
- ・ スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）で設定されている「サイエンス探究」等では、数学と理科で育成された能力を統合し、課題の発見・解決に探究的に取り組むことで高い教育効果。

【諮問文】より高度な思考力・判断力・表現力等を育成するための
新たな教科・科目の在り方について検討



SSHにおける取組み事例なども参考にしつつ、数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を行う新たな選択科目

探究テーマの例（案）

(1) 特定の自然の事物・事象に関する研究

⇒「物理現象の計測方法についての研究」

赤外線センサーを用いた計測装置を製作して物体の運動を解析し、誤差の原因や制度の向上についての研究

⇒「実験条件による化学反応の差異についての研究」

分析装置などを用いて、濃度や温度による硫酸、硝酸の反応性や温度の違いによるアルコールの脱水反応など、実験条件による化学反応の差異についての研究

⇒「生物の生理活性に関する研究」

身の回りの植物や野菜の成分が、他の生物に関してどのような活性があるかを調べ、その成分の性質について研究

⇒「地域における特色ある地学的な事物・事象に関する研究」

段丘、断層、火山、鍾乳洞、集中豪雨、突風などの事象について研究を行い、その概要を把握し、その原因等を研究

(2) 特定の社会現象に関する研究

⇒「バーコードと国際標準図書番号の研究」

バーコードと国際標準図書番号に付けられているチェックサムと整数の性質との関連や、略号と整数の性質との関連についての研究

⇒「道路などの曲線の研究」

高速道路や鉄道線路、ジェットコースターなどのカーブと曲線の性質との関連についての研究

(3) 先端科学や学際的領域に関する研究

⇒「ノイズの除去に関する研究」

音や画像データに混入したノイズを除去するために行われる三角関数や積分などを使った処理についての研究

(4) 自然環境の調査に基づく研究

⇒自然災害に関する研究、環境保全に関する研究

(5) 科学や数学を発展させた原理・原則に関する研究

⇒代数法的式の解の公式の研究、

微分法における平均値の定理の研究

国語教育

国語の科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂（告示）目標

- 1 生活に必要な国語の能力を高め、言語文化に対する理解を深め、思考力・批判力を伸ばし、心情を豊かにして、言語生活の向上を図る。
- 2 経験を広め、知識を求め、教養を高めるために、また、思想や感情を人に伝えるために、目的や場に応じて正しく的確に理解し表現する態度や技能を養う。
- 3 ことばのはたらきを理解させ、国語に関する知識を高め、国語に関する関心や自覚を深めて、国語を尊重し、その発展に寄与する態度や習慣を身につけさせる。

昭和45年改訂（告示）目標

生活に必要な国語の能力を高め、国語を尊重する態度を育てる。

このため、

- 1 国語によつて的確に理解し表現する能力と態度を養う。
- 2 国語による理解と表現を通して、思考力・批判力を伸ばし、心情を豊かにする。
- 3 国語による伝達を効果的にして社会生活を高める能力を伸ばし態度を養う。
- 4 言語文化を享受し創造するための基礎的な能力を伸ばし態度を養う。
- 5 国語に対する認識を深め、言語感覚を豊かにし、国語を愛護してその向上を図る態度を養う。

昭和53年改訂（告示）目標

国語を的確に理解し適切に表現する能力を身につけさせるとともに、言語文化に対する関心を深め、言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

平成元年改訂（告示）目標

国語を的確に理解し適切に表現する能力を身に付けさせるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

平成11年改訂(告示) 目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

平成21年改訂(告示) 目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

国語の科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について

学習指導要領	領域構成	科目(◎:必履修、○:選択必履修)
昭和35年改訂(告示)	A(聞くこと、話すこと)、(読むこと)、(書くこと) B ことばに関する事項	◎現代国語 ○古典甲 ○古典乙Ⅰ 古典乙Ⅱ
昭和45年改訂(告示)	A 聞くこと、話すこと B 読むこと C 書くこと ことばに関する事項	◎現代国語 ◎古典Ⅰ甲 古典Ⅰ乙 古典Ⅱ
昭和53年改訂(告示)	A 表現 B 理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 国語Ⅱ 国語表現 現代文 古典
平成元年改訂(告示)	A 表現 B 理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 国語Ⅱ 国語表現 現代文 現代語 古典Ⅰ 古典Ⅱ 古典講読
平成11年改訂(告示)	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔言語事項〕	○国語表現Ⅰ 国語表現Ⅱ ○国語総合 現代文 古典 古典講読
平成21年改訂(告示)	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	◎国語総合 国語表現 現代文A 現代文B 古典A 古典B

生徒及び教師等の課題

○学習活動の工夫に課題

- ・教科書教材等への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業が行われる傾向。
- ・話し合いや論述など「話すこと・聞くこと」「書くこと」における学習が低調。
- ・高校生の思考力・判断力・表現力に一部課題。
- ・メディアリテラシーや課題探究に関する言語活動等が行われていないという課題。

○国語、古典に対する指導

- ・国語の学習、特に古典に対する興味・関心を高める指導に課題。
- ・進学希望者の多い普通科では、A科目の開設率が低く、言語文化に関する学習が不十分である可能性。

国語教育に関する現状と課題について①

※「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」財団法人日本システム開発研究所(平成21年度文部科学省委託調査報告書)より

○授業や学習指導において心がけていること(質問項目は一部抜粋)

	高等学校		中学校	
	全体	国語	全体	国語
教科書にあることを丁寧に教える授業	44.8%	52.8%	33.8%	35.9%
教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業	57.1%	52.8%	50.3%	44.1%
児童生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業	6.5%	7.3%	25.9%	34.1%
児童生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業	12.2%	9.3%	12.8%	17.7%
本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業	29.3%	27.5%	45.0%	49.5%
小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に児童生徒に学習状況の評価を知らせる授業	34.7%	54.4%	29.2%	48.2%
宿題を定期的に出す授業	16.2%	22.8%	8.9%	9.1%



- ◆教科書教材等への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業が行われる傾向。
- ◆話し合いや論述など「話すこと・聞くこと」「書くこと」における学習が低調。

国語教育に関する現状と課題について②

※「特定の課題に関する調査(論理的な思考)調査結果」(国立教育政策研究所、平成25年3月)より

国語に関連の深い調査問題における主な課題

- 人文科学に関する文章(国語辞典の記述)を読み、文章の特徴を的確にとらえ、それを基に活用できるかどうか把握する問題においては、文章の記述を基に、辞典の特徴を約7割の生徒がとらえていたのに対し、**文章の内容を評価し、目的に応じて適切に活用することができる生徒は約4割にとどまった。**

生徒質問紙の結果

- 論理的な思考力を一般的な表現形式で問う問題については、**7割以上の生徒が解いたことがないと回答しているが、7割以上の生徒がこのような問題を解く力が社会で必要だと回答。**

教師質問紙(国語)の結果

- 授業における言語活動を通じた指導の10項目の実施について、**肯定的な回答をした教師の平均は約4割であった。**肯定的な回答が3割に満たなかった項目は、「**文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択して資料にまとめる**」、「**調査したことなどをまとめて報告する**」、「**課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり、報告書や論文にまとめたりする**」の3項目。



◆**高校生の思考力・判断力・表現力の一部に課題。**

◆**メディアリテラシーや課題探究に関する言語活動等が行われていないという課題。**

「言語活動の検証改善の成果」について

<成果や取組状況>

- 多くの小・中学校で言語活動を意識した活動に取り組んでいる。全国学力・学習状況調査の結果等からは、言語活動の充実が児童生徒の学力の定着に寄与していることが示唆されている。

<課題(抜粋)>

- 課題としては、**言語活動についての目的意識や、教科等の学習過程における位置付けが不明確であることや、指導計画等に効果的に位置付けられていないことにより生じている問題**が指摘されている。
 - ・授業や単元の中で明確な意図を持った位置付けがされておらず、単なる話合いにとどまり形骸化していて、画一的な指導方法となっている例。
 - ・目的意識が不明確であったり、単元全体を通じて常に言語活動を行わなければならないと誤解したりしていることにより、言語活動を行うこと自体が目的化してしまっている例。
 - ・発表や討論に重きが置かれる一方、その前段階として、自分の考えを持たせるための論述等の活動や、発表の後に様々な意見や考えを比較・検討してまとめていくことが十分に行われていない例。



◆ 目標と言語活動の整合に課題がある授業が一部にみられる。

国語教育に関する現状と課題について④

※「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査 教科・科目別分析と改善点(国語)」より

国語の勉強について

- 「国語の勉強は大切だ」について、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と肯定的に回答した生徒の合計は86.4%(前回調査では81.9%)であった。一方、「国語の勉強が好きだ」について、肯定的に回答した生徒の合計は47.7%(前回調査では45.2%)にとどまっている。
- **国語の学習に対して生徒の大半が「大切だ」と考えていながら、「好きだ」と感じている生徒はそれに比べて少ないという、前回調査と同様の傾向がみられた。**

古典の学習について

- 前回調査でも古典の学習に対する「関心・意欲・態度」の向上が課題として指摘されていたが、生徒質問紙調査をみると、「古文は好きだ」、「漢文は好きだ」に**「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」と否定的な回答をした生徒は依然として多い**(今回調査では、古文72.6%、漢文71.2%、前回の調査では、古文74.8%、漢文70.5%)。



◆国語の学習，特に古典に対する興味・関心を高める指導に課題

国語教育に関する現状と課題について⑤

※文部科学省「平成25年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査」より

各科目の開設状況(平成25年度入学生の教育課程)

	普通科				専門学科				総合学科
	1年次	2年次	3年次	単位制	1年次	2年次	3年次	単位制	
国語総合	93.2%	3.5%	2.4%	6.8%	97.8%	50.7%	2.6%	1.7%	100.0%
国語表現	0.1%	8.6%	37.8%	3.3%	0.2%	7.5%	42.6%	1.0%	75.8%
現代文A	0.0%	7.0%	6.4%	1.5%	0.0%	7.4%	31.5%	0.7%	37.0%
現代文B	0.0%	85.7%	88.9%	6.7%	0.1%	43.4%	51.3%	1.4%	88.2%
古典A	0.0%	19.4%	20.7%	2.8%	0.0%	6.7%	8.5%	0.8%	57.2%
古典B	0.0%	74.9%	77.6%	6.6%	0.1%	12.2%	12.4%	0.9%	80.5%

- 共通必修科目「国語総合」は、普通科では9割以上が1年次のみに、専門学科では半数程度が1・2年次に設定。
- 普通科では、2年次以降の選択科目として、「現代文B」「古典B」を開設する学校が多い。「現代文A」は開設する学校が少ない。
- 専門学科では、2年次以降の選択科目として、「現代文B」を開設する学校が多い。3年次においては、普通科と異なり、「古典A」「古典B」よりも、「国語表現」「現代文A」を開設する学校が多い。




◆進学希望者の多い普通科では、A科目の開設率が低く、言語文化に関する学習が不十分である可能性がある。

国語教育に関する現状と課題について⑥

※高校生の国語(古文)に関する意識調査(H23 奈良県内公立高校抽出調査)より

国語、古文の勉強、学習について

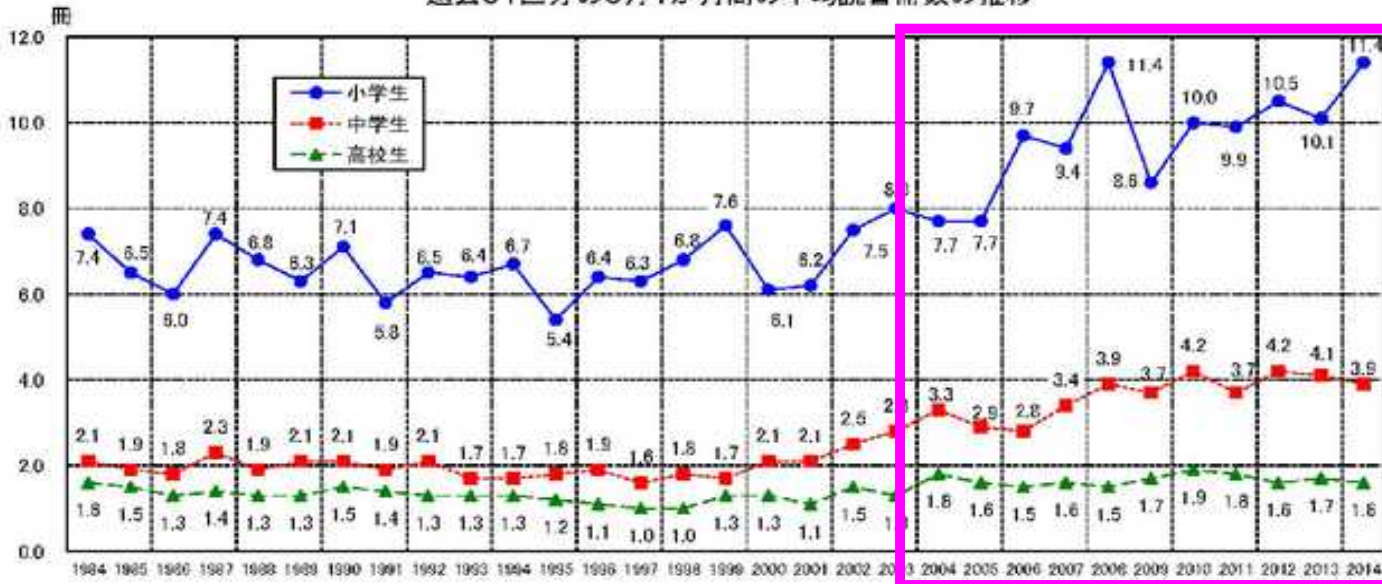
- 「『国語』が好きか」という問いに対して、「好き」又は「どちらかといえば好き」と肯定的に回答した生徒の割合は57%であった。
また、「『古文』が好きか」という問いに対して、「好き」又は「どちらかといえば好き」と肯定的に回答した生徒の割合は31%であった。
- 「『国語』の学習が必要だと思うか」という問いに対して、「必要」又は「どちらかといえば必要」と肯定的に回答した生徒の割合は90%であった。
また、「『古文』の学習が必要だと思うか」という問いに対して、「必要」又は「どちらかといえば必要」と肯定的に回答した生徒の割合は38%であった。
- 生徒が、古文を不要を考える理由としては、「社会に出ても必要がないから」(48.5%)「昔の言葉なんていまさら関係がないから」(30.3%)の回答で約8割となった。
- 古文の授業において、意欲的に取り組めなかった学習内容としては、「文法(25.9%)」、「古語の意味(17.8%)」という言語事項に関する回答が多かった。

- 
- ◆ 古典(古文)に対する興味・関心とともに、必要性を感じさせる指導にも課題
 - ◆ 学習意欲を高めるために、「文法」「古語の意味」等に関する指導の改善の必要性

国語教育に関する現状と課題について⑦

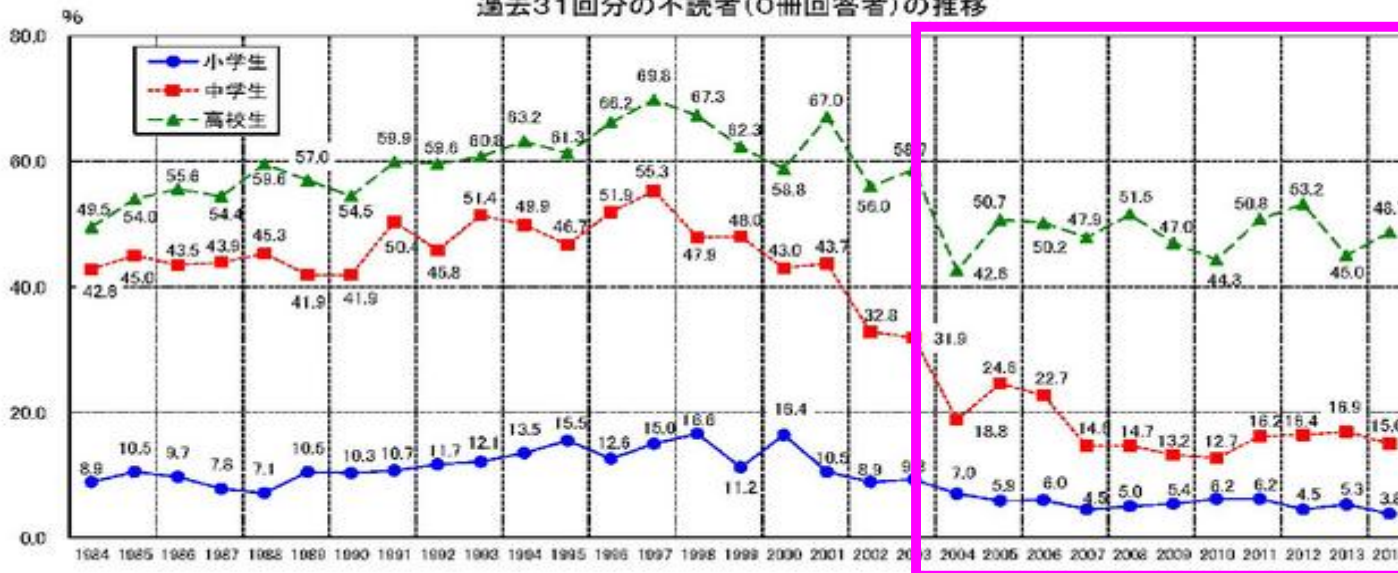
※第60回読書調査より(全国学校図書館協議会は毎日新聞社と共同で、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について毎年調査を実施。)

過去31回分の5月1か月間の平均読書冊数の推移



- 2014年5月の1か月間の平均読書冊数は、小学生は11.4冊、中学生は3.9冊、高校生は1.6冊になっている。
- 昨年度に比べ、小学生は大きく増加したが、中学生・高校生は減少している。

過去31回分の不読者(0冊回答者)の推移



- この調査では、5月の1か月間に読んだ本が0冊の生徒を「不読者」と呼んでおり、今回の調査の結果では、不読者の割合は、小学生は3.8%、中学生は15.0%、高校生は48.7%となっている。
- 昨年度と比べ、小学生・中学生は減少したが、高校生は増加している。

◆小・中学生に比して、高校生の読書活動は、ここ10年ほど改善がみられない。

国語科目の今後の在り方について（検討素案）

改善の視点（案）

[全体的な課題]

- ・他教科等で活用できる汎用的なスキルを育成する必要がある。
- ・依然として、教科書教材に依存した、講義調の伝達型授業が中心となっている。

[主にコミュニケーション能力に関する課題]

- ・話合いや論述など、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習指導が低調で、生徒のコミュニケーション能力の育成に課題がある。
- ・生徒の論理的な思考力(特に文章の内容を根拠に基づいて評価し、目的に応じて活用する力)に課題がある。
- ・静止画や動画における表現者の意図を解釈する力など、時代に対応したビジュアルリテラシーを育成することが必要。

[主に言語文化に関する課題]

- ・これまで継承され、実生活の中で形成されてきた言語文化についての深い理解や関心を高める学習に課題がある。(言語文化への興味・関心を高めるA科目の開設率が低い。)
- ・文法や古語など知識・理解の学習に偏る傾向があり、古典への興味・関心を高める学習指導に課題がある。
- ・学習指導が教科書教材の読解に偏る傾向があり、文学的文章の創作等の言語活動が十分行われておらず、想像力・創造力の育成に課題がある。

選択科目の在り方

現代文を中心に古文・漢文を含めて扱うなど、総合的な国語の能力を育成すること

論理的な文章(論説文・評論文、小論文等)を読んだり書いたりする力を育むこと

文学的な文章(小説、随筆・随想、脚本等)を読んだり書いたりする力を育むこと

古文・漢文等への理解を深め、言語文化への関心を高めること

共通必修科目の在り方

実社会・実生活に生きる国語の能力の育成

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」といった、表現に関わる能力の育成
- ・話合いや論述などの活動の重視
- ・静止画や動画も含む多様な表現の扱い

古典を含む我が国の言語文化に関する理解等を深めること

- ・古典に関わる言語文化についての理解と活用
- ・古典以外の文章に関わる言語文化についての理解と活用

検討の方向性（案）

(参考) 現行の国語の各科目の指導事項

「国語総合」の領域等との関連からみた各選択科目の指導事項

		A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	〔伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項〕
共通 必修科目 選択科目	国語総合				
	国語表現	(話すこと・ 聞くこと)	(書くこと)		(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)
	現代文A			(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)
	現代文B	(話すこと・ 聞くこと)	(書くこと)	(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)
	古典A			(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)
	古典B			(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項)

※太線枠は、各選択科目において、より指導の中心となるものを示す。

○研修

名 称: 言語活動指導者養成研修(国語力向上指導者養成研修)

主 催: 独立行政法人教員研修センター(共催: 文部科学省)

期 間: 平成26年10月15日(水)～10月17日(金)

受講者: 小・中・高等学校等の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等(定員220名)

目 的: 学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等において言語活動の充実に取組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、本研修を踏まえた各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。

コース: 学校全体のアクションプラン作成コース、各教科等の学習指導計画作成コース

○指導事例集

名 称: 言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】

作 成: 文部科学省(平成24年6月)

内 容: 言語活動について、国語科で培った能力を基本に、全ての教科等において充実を図るために、言語活動の充実に関する基本的な考え方や言語の役割を踏まえた言語活動の充実の在り方について解説するとともに、参考となる指導事例を収録。